

子どもマスクで守って

小松のイケガミ 社福法人に贈る

新型コロナウイルス感染症の拡大でマスクが不足する中、小松市今江町の建材メーカー「イケガミ」は二十四日、子ども園などを運

営する社会福祉法人「吉竹福祉会」(同市吉竹町)に、マスク三千枚を贈った。取引先の中国企業から寄贈を受けた。この三千枚



マスクを長戸康英理事長(左)に贈った池上和美取締役＝小松市吉竹町で

を含む計一万余枚を今後、市内の子ども園や児童館などに贈る。池上和美取締役(左)は「大切な子どもたちと接する場。役立ててもらえたらうれしい」と話している。

イケガミは一月下旬、感染症が広がる中国の取引先企業にマスク六千枚を寄贈した。現地では当時、マスク不足が深刻で「とても喜んでくださった」と池上取締役は振り返る。今回はお返しにと中国企業が贈ってくれたといい、計一万枚を受け取る予定という。

池上取締役が、吉竹町のよしたけ子ども園を訪れ、吉竹福祉会の長戸康英理事長(右)にマスクを手渡した。同会は県内五カ所子ども園を運営するが、備蓄

は既になく、職員が個別に買い求めているという。長戸理事長は「マスクは足りておらず、本場に助かる。早速、職員に配布したい」と話していた。

(青山直樹)